翔陽高校生　議会傍聴に！！

12月14日(火)、一般質問2日目の様子を翔陽高校３年次生18名(政治経済受講者)が傍聴させて頂きました。新しい庁舎になっての傍聴は初めて！眺めの良さに感動するとともに、議会の雰囲気を肌で感じ取った生徒たち。その生徒たちのレポートの中から一部をご紹介します。

石橋 翔平（大津北中出身）

大津町民としてあれだけ真剣に議会が行われている場面を初めて見て、とても嬉しかった。また町民の声にしっかりと応えようとしている議員の方々の姿勢に感動しました。通告者が話されているときは、相槌をうったりと、議員の話し方や態度はすごく学べるものが多かった。傍聴した GAP 認証に関しては、県で農業の講習会を開催しており、大津町でも開催してほしいという意見があった。それに対しても無理と言わず、県と連携して取り組んでいくという姿がすごいなと思った。

永江 萌花（大津中出身）

私の知らないところで私たちがよりよく過ごせるために色々な話し合いを重ねて頑張ってくれている人がいることを改めて実感する機会となりました。またタブレット等も活用されており、傍聴者にとっても分かりやすい様子なのは意外だった。小学校の頃学習会や読み聞かせなどでお世話になった議員さんもいらっしゃいましたが、優しい一面とはまた変わり、違うところは違うと発言されている様子をみて、議員としての役割を再認識しました。

髙宮 千聖（阿蘇中出身）

町の議会の様子を知らないまま行ったこともあり、想像とは違う点がいくつもあった。まず町の議会は国会とは異なり意見を簡単に発言できる場だと思っていたが、形式がきちんと決まっていた。他にも女性の議員の方がいるのかなと思っていたが、一人だけと少なかったり、通告者の持ち時間があったり、という事は傍聴することで気づくことができた面だと思う。また予定と違って前倒しになった通告者の方も資料や写真を活用されており、初めて聞く内容だったけど分かりやすかった。これから社会にでていく中で自分の意見をしっかりと持ったり発言していくことも大事だなと思った。

藤川 真希（東部中出身）

始まる前はとても静かで緊張感があった。議員の方々が大津町のために頑張っているのだと直接感じることができた。大津町ではなく、自分の住んでいる地域の議会を見るのも面白いのかなと思った。自分の町の活動や課題を知る機会にもなるので、今度自分の住んでいる地域の議会傍聴に行ってみようと思った。

川辺 朱莉（菊鹿中出身）

議会傍聴では、自分が想像していたよりも議員の方々が、分かりやすく説明した上で話されていたのでとても理解しやすかった。どのような点が問題で、どう解決していくのか今後の動きも含めて分かりやすい説明だった。自分の住んでいる山鹿市のこともすこし気になりました。自分の住んでいる地域の議員が誰なのかもよくわかっていないので、今回の議会傍聴を機に少し調べてみようと思った。

議会傍聴の記念に！庁舎前で！

若者の視点

尚絅大学生によるレポート 26

一般質問のオンライン傍聴の感想

12月13日、14日に行われた一般質問をオンラインで傍聴し、社会学概論という授業の受講生に議会傍聴の感想をまとめてもらい、授業内で発表会を行いました。

不登校児童をめぐる問題について

現代文化学部2年　吉田　和奏

私は以下の質問が印象に残り、その質問内容と応答を踏まえ、自分の感想を記したいと思う。

【質問内容】不登校児童・生徒への支援の拡充が必要

【町側からの応答】教育支援センターや民間のフリースクールに通う児童は指導要録上の出席扱いとなっている。不登校対策協議会・不登校対策担当者会を定期的に開催し情報交換を行っている。子供たちの学びの場の選択肢が増え多様な学びが存在し得ることが社会的自立支援に繋がるという考えを全小中学校と共有している。

【感想】

不登校児は年々増加傾向にあるものの、教育支援センターや民間のフリースクールに通う児童を出席扱いとする体制が整っていることが分かった。その主な目的は社会的自立の支援となる学習指導を提供することや、児童に安心できる居場所を提供することなどだ。子供たちにとって学校にいけないことにより自分の居場所をなくしたことへの不安や将来的な学力面の不安が解消できるので、児童の気持ちの面でもかなりポジティブな意味があると思った。今後の課題として経費負担の面で児童・生徒という当事者のみではなく、公的機関による積極的なサポートが必要であると思った。

地元高校の問題と料金収納方法の改善について

現代文化学部2年　濱田　雅衣

今回、私はオンラインで議会を傍聴して、教育や福祉、交通など大津町が抱える様々な問題を知り、それらを改善するために慎重に話し合う議員の方の様子を見て、政治を身近に感じることができた。そのなかでも、私が特に印象に残った質問内容は、「地元の高校に企業が求める科の新設を」と、「町営住宅の駐車場料金収納の改善」である。

「地元の高校に企業が求める科の新設を」という質問において、少子化による人口減少によって大津町の高校が生徒離れの問題を抱えていることを指摘された。同様の問題を抱えている村や町の現状と比較しながら質問されていたため、分かりやすく問題を把握することができ印象に残った。国際科のような新たな学科の創設を再質問で要望した。

新たな学科を新設することはコストや教員の負担がかかるため、慎重に進めていかなければならないと思った。また、地元の高校受験生にアンケートや聞き取り調査を行い、ニーズを正確に把握することも重要だと感じる。

次に、「町営住宅の駐車場料金収納の改善」という質問については、家賃は口座引き落としの一方で、駐車場料金は現金集金されている現状が指摘されており、自分が住民だと考えた時かなり不便だと感じたため、印象に残った。私は、今はキャッシュレス化も進んでいるため、柔軟な支払方法を進めていくことが、利便性の向上につながるのではないかと思っている。